

漁況海況予報事業*

概 要

田中 嘉治・杉村 允三・竹内 淳一・中地 良樹
武田 保幸・調査船「わかやま」藤井一人他6名

目 的

本県沿岸および同沖合の海況と漁況をモニタリングして、海況と漁況に関する調査研究を行う。同時にこれらの情報を漁業関係者に報告して漁業経営の合理化に資する。

方 法

平成7年度漁況海況予報事業実施方針（水産庁）による。

結 果

和歌山県漁海況情報（第125報～第130報、毎月）ならびに沖合黒潮調査速報（1995.No. 2～13、1996.No. 2）にすべて速報した。特徴的な海況と漁況の概要は以下のとおりである。

1 海 況

黒潮：南西海域の黒潮は、4月は都井岬～室戸岬で接岸を持続したが、'95年1月後半に都井岬南東沖に発生した小蛇行が3月末～4月初めにかけて潮岬を通過し一時50浬離岸した。4月後半に種子島東沖に小蛇行が発生し5月上旬に都井岬南東沖で規模を拡大したため、屋久島～都井岬で大きく離岸したが、足摺岬～潮岬でやや離岸、後半は九州東岸～足摺岬で著しく離岸、室戸岬～潮岬で接岸となった。6月前半は都井岬南東沖の蛇行は東進し九州東岸～足摺岬で接岸、室戸岬～潮岬でやや離岸となり蛇行は規模を縮小しながら7月下旬に潮岬を通過した。その後黒潮は接岸傾向に転じ九州東岸～潮岬で概ね接岸を持続した。しかし、9月前半には都井岬南東沖に新たに小蛇行が発生し10月前半には足摺岬に東進した。この小蛇行は東進速度が速く10月20日頃には潮岬を通過した。小蛇行の通過後の11月～'96年1月前半は都井岬～潮岬で概ね接岸を持続したが、1月前半に都井岬南東沖で小蛇行が発生し、2月前半～3月後半には足摺岬～四国沖でやや離岸、3月後半には九州東岸～紀伊水道沖でやや離岸となった。

潮岬沖合の黒潮は4～7月はやや離岸傾向であり、小蛇行や黒潮擾乱の通過に伴い短期的に離岸（35～50浬）した。しかし8月以降は概ね20浬以内の接岸を持続した。

潮岬以東域の黒潮は、前述の小蛇行の潮岬通過後の4月は熊野灘で蛇行規模が拡大し、その後蛇行は遠州灘に東進して5月中旬に蛇行の北上部は伊豆海嶺の東に達した。このため4～5月前半はB型、5月後半～6月後半はC型、7月前半はD型流路となり8～10月はN型直進流路で経過した。しかし、11月前半にはB型、同後半はC型となって、12月後半には八丈島南北緯33°31'まで大きく蛇行した。その後3月後半までC型（一時W型）基調で経過した。

沿岸海況は4～7月は黒潮がやや離岸傾向で経過したことから、潮岬沿岸の東向流がしばしば弱くなることが目視された。

* 漁海況予報事業費による。「平成7年度漁況海況予報事業結果報告書」として既報。

沿岸水温：定線観測の各海域の水温は次のとおりである。

紀伊水道内：表面水温は、6～8月のやや低め～低めを除いて平年並み～やや高めで経過した。30mでは夏季(7～8月)に低め～かなり低めとなったが、他の月は概ね平年並み～やや高め、50mでは7～9月にかなり低め、10～11月にやや高めを除いて、概ね平年並み～やや低めで経過した。

紀伊水道外域：4月は概ねやや低め、5月は概ね高め、6月は0～30mで平年並み～やや低め、50～100mでやや高め～高め、7～9月は表面のプラス基調の平年並みを除いてやや低め～かなり低めで経過し、特に8月の30m以深でかなり低めとなった。10月以降は11月の100mのかなり低めを除き、平年並み～やや高めで経過した。

紀南域(瀬戸崎～潮岬)：4月の0mの低め、7月の30～50mの低め、2月の0mの高め除いてやや低め～やや高めで経過した。

熊野灘南部：4～6月は概ねやや高め～高め、7月は概ね平年並み、8月は0mでやや高めを除いて低め～平年並み、9月は0mの平年並みを除いてかなり低め～低め、特に30～100mでかなり低め、10月は概ねやや高め、11月は0～50mでやや低め～低め、100～200mで平年並み～やや高め、12月は0～50mでやや高め、100～200mでかなり高め、1月は概ね平年並み、2月は0～50mで低め、100～200mでやや低め～平年並み、3月は概ねやや低めで経過した。

2 漁 況

マイワシ：6月以降9月まで、当歳魚の漁獲は前年・平年を上回る高水準が持続した(1そうまき網、4～9月、対前年比151%、対平年比169%)。これは主に串本漁協1そうまき網が熊野灘南部の檜野崎～梶取崎沖で漁獲したもので、紀伊水道外域では目立った漁獲はみられなかった。例年同期に比べ体長が大きかった。冬季の産卵親魚群の来遊は3月中～下旬にあり、串本漁協1そうまき網で約69t漁獲されたが、来遊量は少なかった模様で、漁獲量は前年・平年を下回った。体長モード19cmの大羽群が主体であった。

冬季のマシラスは12月に紀伊水道内、水道外域の田辺湾～南部湾でややまとまった漁獲があったが、1月以降低調になった。

カタクチイワシ：紀伊水道内のパッチ網によるカタクチシラスは春季から秋季まで不漁で経過した(簗島町漁協、4～9月、対前年比57%、対平年比38%)。水道外域の田辺湾～南部湾のパッチ網では前年並みの低水準で経過した(南部町漁協、4～9月、対前年比107%、対平年比55%)。

ウルメイワシ：春～秋季の棒受網による当歳魚漁獲量は各地とも前年を上回る好漁であった(串本漁協、4～11月、対前年比145%、対平年比100%)。冬・春季にパッチ網でウルメシラスの混獲率が高く、また卵稚仔調査による卵出現量も多かったことから、本年は卵・仔魚の沿岸への補給が比較的多かった模様である。

サバ類：4月のマサバ産卵群、8～9月のマサバ・ゴマサバ索餌回遊群の漁獲により、上半期は水道外域2そうまき網で前年同期を大きく上回った(2そうまき網、4～9月、対前年比236%、対平年比109%)。秋サバ漁は8月下旬に初漁があり9月上旬までマサバ主体(マアジ混じり)の漁獲があったが、同中旬以降ゴマサバ主体(オアカムロ混じり)にかわった。漁場は瀬戸崎～

和深埼（すさみ町）沖で、8～9月のマサバ体長モードは31～32cm（1・2歳魚）であった。

10月中旬に再びマサバ0・1歳魚にかわり、12月末まで前年を上回る好漁で経過した。2月中旬の2そうまき網の解禁以降、マサバ越冬群（満1・2歳魚）が好漁であったが、3月上旬には魚群がみられなくなった。

マアジ：上半期は卓越年級群である2歳魚（1993年級群）主体に散発的ながらまとまった漁獲があり、漁獲能率の高い2そうまき網で前年を上回った（2そうまき網、4～9月、対前年比139%、対平年比214%）。

当歳魚（1995年級群）の漁獲は水道外域～串本周辺では目立ったものはなかったが、熊野灘南部的那智勝浦町沖でかなり漁獲された（宇久井漁協棒受網、7～9月、169.2t）。下半期にはマサバと同じ漁場で10月中旬～12月下旬、2月中～下旬に1・2歳魚主体で漁獲が好転した。10月の平均体長は1歳魚22.9cm、2歳魚26.5cm、3歳魚28.8cmで、1993年級群の成長が悪いことがうかがえた。

3 沖合・沿岸・浅海定線調査報告、海況・漁況情報の発行

1) 沖合・沿岸・浅海定線調査報告

主な配布先 水産庁、水産研究所（南西、中央他）、都道府県水産試験場、気象庁、漁業情報サービスセンター、水路部

発行部数 沖合定線報告 45部

沿岸・浅海定線報告 55部

南西海区水産研究所外海調査研究部に所定の海洋観測入力様式「POD」にてデータを入力したフロッピーディスクで報告した。

2) 海況・漁況情報の発行

a) 海況速報 漁業情報サービスセンターからファックス受信した海況速報はすべて、県下関係漁協に直ちにファックス送信。

b) 人工衛星利用沿岸海況図 サービスセンターから受信後、利用価値のあるものは県下関係漁協にファックス送信。

c) 南西東海海域海況速報 上記 a)、b)と同じくファックス送信。

d) 南西東海海域沿岸漁況情報 適宜業種別広域漁況を関係漁協にファックス送信（2～7月）

e) 沖合黒潮調査速報 「わかやま」による本県沖合の黒潮とその内側域の漁場海況調査結果速報で関係漁協、関係機関にファックス送信。延14回。

f) 和歌山県漁海況情報（第125報～第130報） 和歌山県沿岸沖合を中心とする1ヶ月の海況と漁況および資源の解説。

発行回数 月1回、1995年4月～1995年9月

主な配布先 水産庁、水産研究所（南西・中央）、都道府県水産試験場、県内全漁協、関係協力漁業者、その他関係者。

発行部数 200部

g) 漁海況速報（第7-14号～第8-12号） 和歌山県沿岸沖合を中心とする1週間の海況と漁況

情報をファックス送信により提供した。

主な提供先 水産研究所（南西）、府県水産試験場、県内漁協、関係漁業者、その他関係者。

h) その他 毎週1回海況、漁況の新聞広報（週刊南紀ウィークリー、紀伊民報等）。

定地水温は毎日、気象協会を通じて広報（和歌山放送）。